

平成20年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさをも身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎学力の徹底」から、さらなる「学力の向上」を目指す。 2 自主的に、安全に、安心して充実した毎日を送れる学校環境を作る。 3 健全な職業観を育みながら、進路選択の機会を与える。 4 中高一貫校としての六年教育の価値をますます高めるための教育環境整備に取り組む。
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 2 5 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 5 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	20年春、中高一貫第6期生が開校以来の悲願であった東京大学現役合格を果たした。このことは、今までの徹底した少人数制による理想的な教育環境と基礎基本の徹底を重点に指導した結果であると評価したい。今後さらなる学力向上に努めることが学校発展に不可欠である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の満足度を高める授業力の向上 学習の定着を図る カリキュラムの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の実施 特別講習(補習、演習)の強化 フォローアップ 新指導要領の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善が図られたか 生徒の学力向上が見られたか 生徒の学力が引き上げられたか 教育課程の改善と移行措置は検討されたか 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、積極的に取り組んだ。実施者はやや減となったが、研修・討議を熱心に行い、各自の授業改善に取り組んだ。 開始時間を早め、効率的な講習が実施できた。 行事等の影響で、予定授業数の確保が難しかったが、個別指導により、学力の改善が見られた。 研修会への参加を含め、全職員で研究し各教員がレポート提出。 	B A A	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上、研究授業を授業改善の契機としてより活用する 学習定着システムの実施 学習習慣のさらなる確立 平成22年度より選抜クラス設置予定のため、新カリキュラムを検討
2	1クラス25人を基本とした少人数教育のもと、一人ひとりを面倒見よく丁寧に指導をしている。穏やかで素直な生徒が多いが、ともすると他に頼る傾向が強く、たくましさや自主性に欠ける面もある。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の徹底 生徒の自主性を伸ばす 安心安全な学校環境を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた細やかな指導 各学校行事の充実 部活動、生徒会活動の充実 校内交通安全の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 細やかな指導が日々行われたか 生徒が主体性を発揮し、各行事に意欲的に取り組むことができたか 生徒が自主的に活動し、成果を上げられたか 交通安全のための施設が充実したか 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣、服装などは概ね良好である。 各行事とも生徒が主体的に参加し、本校らしい伝統行事として実施できた。 各部とも充実した活動をしている。特にバレー部は地区大会初優勝、県大会への出場を果たした。 生徒会本部役員の意識の高さにより、自主的な取組みが行われた。 スクールバスの停留所を設置し校内の交通の安全確保。また、校庭にベンチも設置し、憩いの場となる。 	A A A	<ul style="list-style-type: none"> 教員の共通理解に基づくきめ細やかな指導をより充実させる 本校の伝統行事のますますの充実
3	生徒の目標は、中高6年後の大学入試に偏りがちである。その先の職業選択はもとより自己の将来設計をしっかりと考えさせることが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザイン」を意識した指導の充実を図る。 模擬試験の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来設計を考えさせられたか データを積極的に活用できたか 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年で都内の「大学見学会」を行ったが、キャリア教育への取り組みが遅れてしまい、講演等ができなかった。 高等部での主催の「卒業生を囲む会」に参加。 模試返却時「進路だより」を発行。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を動員し、進路講演会を行う。 他の業者模試あるいは本校独自の試験に変更を検討中である。
4	本校の特長を生かし、生徒の能力を最大限に伸ばさせるためには、今以上に中高連結した効率的な六カ年一貫の教育体制が必要不可欠である。	<ul style="list-style-type: none"> 中高連結した効率的な六カ年一貫の教育体制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教科間の連携を密にし、学力の向上を図る。 年間行事の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携が強化されたか 中高合同行事や六年教育の特色ある行事ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 教科間で差があり、全体として再度見直すべきである。 中学の卒業式を修了式と同日に変更、また中高合同行事を検討した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携会議を設置し、情報の共有化を図る。 中高教科会を定期的に関き、学習面での問題点を協議 入試改革、学校改革を推進するため、中高で「プロジェクトチーム」を設置する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成21年3月25日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業は大変きめ細かく丁寧に見てくれている。 全体として、穏やかな生徒が多いのは大変良いが、学習面でののんびりムードもある。 私学として、学力の上下を問わず、これからも一人ひとり面倒見を良くしたい。 中高一貫校は中だるみの時期がある。下位層の引き上げ、グレードの分け方に一工夫があっても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって一生懸命取り組んでいる。成長著しい。 これからも文武両道を目指し、部活だけ、勉強だけということのないようバランスのとれた人材を育成したい。 卒業式を見れば、学校経営は大変良くできていることがうかがえる。大変厳粛で良い式であった。 生徒はしっかりとあいさつできる。
<ul style="list-style-type: none"> 6期生までの進学データ、成績のデータを積極的に利用した大学受験指導をしたい。 キャリア教育に保護者を活用したい。 先輩のデータを活用し、具体的な指針を与えて、期待感を持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫の組織として理想の組織を作るべきである。 中高全教職員協力の下、継続的に改善を図ることが重要である。